



2026 年 9 月 24 日

各 位

会 社 名 株式会社ティアフォー

代表者名 代表取締役 CEO 加藤 真平

(コード番号：593A 東証グロース市場)

問 合 せ 先 取締役 CFO 阪口 聡志

(TEL. 03-4520-2315)

レーシングカート向け自動運転システムのリファレンスデザイン公開

及び「自動運転 AI チャレンジ」開催に関するお知らせ

当社は、レーシングカート向け自動運転システムのリファレンスデザイン（注１）を構築し、そのソフトウェアや設計情報を GitHub（注２）で公開しました。本リファレンスデザインは、自動運転用オープンソースソフトウェア「Autoware（注３）」を基盤とし、シミュレーションから実車までの開発・評価を支える環境と併せて提供されます。公益社団法人自動車技術会が主催する「自動運転 AI チャレンジ」が 2026 年 7 月から 9 月にかけて開催され、予選と決勝を通して 240 チーム、約 600 人の参加者が本リファレンスデザインを共通基盤として活用しました。この取り組みを通じてティアフォーは、オープンな技術開発と次世代人材の育成を支援します。

記

1. 本件の背景

自動運転システムの開発においては、車両、センサー、コンピューター、ソフトウェア等の統合作業や、シミュレーション、実車での評価環境の構築が必要不可欠です。こうした開発・評価環境を一から構築することは、新たに自動運転分野に参入する開発者にとって大きな負担となり、技術開発や人材育成の障壁の一つとなっております。

この課題を解決するため、当社は自動運転用オープンソースソフトウェア「Autoware」を基盤として、対象車両をレーシングカートに特化した自動運転システムのリファレンスデザインを構築し、シミュレーションから実車までの開発・評価を支える環境と併せて提供を開始いたしました。

この取り組みにより、開発者はシステム全体を一から構築することなく、自動運転アルゴリズムや AI モデルの開発や改良に取り組むことができます。

2. 「自動運転 AI チャレンジ」での活用実績

「自動運転 AI チャレンジ」は、公益社団法人自動車技術会が主催する、学生から社会人まで様々な技術レベルの開発者に自動運転技術の開発機会を提供する競技大会です。参加者が自動運転ソフトウェアの開発を実践的に学び、技術を競い合うことを通じて、人材育成と自動運転分野への参入促進を目指しています。

2026 年 7 月から 9 月にかけて開催された大会において、240 チーム、約 600 人の参加者が当社のレーシングカート向けリファレンスデザインを共通基盤として活用し、それぞれの発想や技術力を生かして自動運転システムの開発・改良に取り組みました。

2026 年 9 月 19 日と 20 日に開催された決勝では、レーシングカートを対象に、シミュレーションや実車両を用いた競技が行われました。



(シミュレーション決勝の様子)



(実車両決勝の様子)

3. 事業戦略上の意義及び今後の見通し

当社は、「自動運転の民主化」の実現を目指し、「Autoware」を中心としたオープンソースのエコシステムを世界各地に広げています。今後もオープンソースを通じた自動運転システムのリファレンスデザインの拡充や開発・評価環境の整備を進め、企業、研究機関、教育機関などのパートナーと共創しながら、自動運転の社会実装を支えるエコシステムの拡大を目指します。

本件が当期の連結業績に与える影響は軽微ではありますが、中長期的な企業価値の向上に資する取り組みであります。

- (注1) リファレンスデザイン：「Autoware」に含まれる要素技術を基盤とし、車両毎に必要とされる技術を抽出し、自動運転の実現に必要なソフトウェアとハードウェアの構成を標準化した設計モデル
- (注2) GitHub：ユーザーがコードを保存し、ソフトウェア開発を共同で行うためのクラウドプラットフォーム
- (注3) Autoware：The Autoware Foundation の登録商標

以上